

序

体液・電解質管理や輸液の知識は、患者を管理するうえで、すべての医療者に学んでもらいたい、基本的かつ重要なテーマです。

入院患者を担当する、研修医・看護師・薬剤師などの皆さまは、毎日のように輸液療法を目にするとおもいます。脱水で輸液療法を受けている患者もいれば、電解質異常に対する治療として輸液療法を受けている患者もいるでしょう。

脱水は、volume depletionとdehydrationに区別されます。前者の病態は、細胞外液量の減少であり、後者の病態は、細胞内液量の減少（自由水欠乏）になります。Volume depletionと判断した場合には、細胞外液の補充が主な目的となるため、生理食塩液を中心とした細胞外液製剤が選択されます。その一方で、dehydrationに対しては、自由水の補充が主な目的となるため、5%ブドウ糖液が選択されます。つまり、適切な輸液製剤を選択するためには、目の前の患者が抱えている病気の病態生理を正しく理解しなければなりません。そのためには、患者の訴えをよく聴き、病歴を聴取し、丁寧に身体診察を行い、必要最小限の検査を実施し、それらの所見を、正しく評価する能力を身につける必要があります。

本書は、上記の内容のような、病棟や外来で即戦力として使える、体液・電解質管理の基本を解説します。初学者でも理解できるように、できる限り、病態生理を基礎から分かり易く説明し、ポイントを整理して記載するようにしてあります。

研修医のみならず、臨床現場で活躍されている全医療者の方々に、本書を読んでいただき、明日からの業務に役立てもらえれば幸いです。

2023年9月

編者を代表して
順天堂大学 医学部医学教育研究室
西崎 祐史